

活動プログラム名	教科等	小学校	教科等	中学校	所要時間	可能時期
		学習指導要領における内容等		学習指導要領における内容等		
登山	理科	・雨水の行方と地面の様子(4年) ・流れる水の働きと土地の変化(5年) ・土地のつくりと変化(6年)	理科	・身近な地形や地層、岩石の観察(1年) ・地層の重なりと過去の様子(1年) ・火山と地震(1年) ・自然の恵みと火山災害・地震災害(1年) ・自然の恵みと気象災害(2年) ・生物と環境(3年) ・自然環境の保全と科学技術の利用(3年)	3～7時間	通年
OL	理科	・季節と生物(4年) ・雨水の行方と地面の様子(4年) ・流れる水の働きと土地の変化(5年) ・生物と環境(5年) ・土地のつくりと変化(6年)	理科	・身近な地形や地層、岩石の観察(1年) ・地層の重なりと過去の様子(1年) ・火山と地震(1年) ・自然の恵みと火山災害・地震災害(1年) ・自然の恵みと気象災害(2年) ・生物と環境(3年) ・自然環境の保全と科学技術の利用(3年)	1.5～2.5時間	通年
水基めぐり	社会	・身近な地域や市区町村の様子(3年) ・都道府県の様子(4年) ・県内の伝統や文化、先人の働き(4年) ・県内の特色ある地域の様子(4年) ・我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり(6年)	社会	・地理的分野 A(1)②日本の地域構成 C(1)地域調査の手法 C(2)日本の地域的特色と地域区分 C(3)日本の諸地域 C(4)地域の在り方	1.5～2時間	通年
阿蘇神社・水基めぐり フィールドビンゴ	社会	・身近な地域や市区町村の様子(3年) ・都道府県の様子(4年) ・県内の伝統や文化、先人の働き(4年) ・県内の特色ある地域の様子(4年) ・我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり(6年)	社会	・地理的分野 A(1)②日本の地域構成 C(1)地域調査の手法 C(2)日本の地域的特色と地域区分 C(3)日本の諸地域 C(4)地域の在り方	1.5～2時間	通年
沢登り・沢遊び	理科	・雨水の行方と地面の様子(4年) ・流れる水の働きと土地の変化(5年) ・生物と環境	理科	・自然の恵みと気象災害(2年) ・生物と環境(3年) ・自然環境の保全と科学技術の利用(3年)	3時間	5月～9月
星座観察	理科	・月と星(4年) ・月と太陽(6年)	理科	・天体の動きと地球の自転・公転(3年) ・太陽系と恒星(3年)	1～1.5時間	通年
キャンドルの集い	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現	2時間	通年
キャンプファイヤー	理科	・燃焼の仕組み(6年)	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現	2時間	通年
	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現				
野外調理	理科	・燃焼の仕組み(6年)	理科	/	4時間	4月～11月
	家庭	(1)食事の役割 (2)調理の基礎				
チャレンジゲーム	体育	A 体づくり運動 (5・6年) ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	2～3時間	通年
	学活	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全				
ジオパーク学習 プログラム	理科	・雨水の行方と地面の様子(4年) ・流れる水の働きと土地の変化(5年) ・土地のつくりと変化(6年)	理科	・身近な地形や地層、岩石の観察(1年) ・地層の重なりと過去の様子(1年) ・火山と地震(1年) ・自然の恵みと火山災害・地震災害(1年) ・自然の恵みと気象災害(2年) ・生物と環境(3年) ・自然環境の保全と科学技術の利用(3年)	3～6時間	通年
阿蘇防災学習 プログラム	道徳	・希望と勇気、努力と強い意志 ・親切、思いやり ・感謝 ・勤労、公共の精神 ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・生命の尊さ ・自然愛護 ・よりよく生きる喜び	道徳	・希望と勇気、克己と強い意志 ・思いやり、感謝 ・社会参画、公共の精神 ・勤労 ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・生命の尊さ ・自然愛護 ・よりよく生きる喜び		

※教科等に位置づけたり、関連付けたりすることで、より効果的な学習の展開を期待できる「体験活動プログラム」の例を提示しています。各学校の集団宿泊活動の目標及び教科等のねらいに応じて、教科等の時間として取り扱うことで、各校の先生方と交流の家職員等が連携することで、授業時数としてカウントすることも可能になると考えています。ぜひ、ご検討ください。

[例 導入(学校)-活動(交流の家)-まとめ(学校)など]